

志布志湾初の掃海訓練

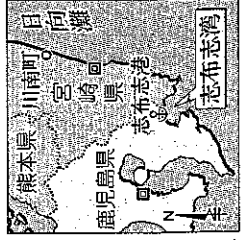
21-24日「日向灘」中止の代替

海上自衛隊が二十一、二十四日、志布志湾で初めて大規模な掃海訓練を行うことが十四日、分かった。掃海母艦など二十七隻が参加し、志布志湾に接岸する。例年十一月に日向灘で行う訓練が、今年は漁業補償で折りがつかず中止となったのに伴う代替。海上幕僚監部は「志布志湾では訓練内容や期間を縮小した。漁船などに影響がないよう訓練するので漁業補償は不要。来年以降の

実施は決まっていない」としている。訓練に参加するのは「ぶし」(五、七〇〇トン)など掃海母艦三隻、掃海艦三隻、掃海艇二十二隻。乗組員は約千三百人。ヘリコプターも三、四機参加する。日中、海底に設置した模擬機雷の捜索、へりからの潜水員の降下揚収などを行う。訓練海域は「志布志湾の一部」としており、訓練前に安全を確認した海域で実施するという。艦艇は十九日に志布志

港に入る。訓練期間中に離脱する船もあるが、最終的には二十五日出港する。二十四日には一部の掃海艇が一般公開される予定。鹿児島県は十四日、係留許可を出した。志布志市の本田修一市長は「旧志布志町時代から、志布志湾は休養などの目的で自衛艦を受け入れている。観光、商業振興面への波及効果も大きい。今回もこれまでの一環として受け入れたとコメント。志布志漁協の吉田全組合長は「子ロ

対策など国防の一環であることから、理事会全員一致で受け入れを決めた。漁業補償などは求めている」と話した。宮崎県漁連によると、日向灘の訓練海域に近い漁協から「十分な漁業補償を得られず、訓練後は魚の戻りが悪い」など反対意見があり、今年は防衛省側と契約しないことを決めた。訓練中止は一九九九年に続き二回目。来年以降はあらかじめ協議するという。



日向灘掃海訓練

海上自衛隊が1992年から実施している。訓練期

間は10日間程度で、海兵隊有の掃海艦艇の大半にあたる30隻近くが参加。宮崎県川南町などの沖合に訓練海域を設定し、漁業関係者に補償する。米海軍の水中処

分員数人が参加し、日米共同訓練として行われる場合もある。98年の日米共同訓練では志布志湾に28隻が入港した。

日向灘掃海訓練を中止

代志布志湾で 替 漁協合意得られず

海上自衛隊が毎年日向灘で行う掃海訓練が、漁業補償の折り合いがつかず今年中止されたことが十五日、分かった。代替として鹿児島県の志布志湾で訓練する。県漁業協同組合連合会(丸山英雄会長)は「各漁協の意見を集約したが全組合の合意が得られなかった。来年も訓練に向けて協議したい」と話してい

る。同漁連によると、訓練は県漁政対策委員会と福岡防衛局が合意して契約を結ぶことが必要。同局は訓練が行われる制限水域で、操業をまひし漁業者に対して損失補償金を支払う。同漁連は「巨額から対象の十四漁協から意向を聞いたが、今年は大揚げ高の減少や燃料とな

る重油高騰の影響で一、九九年除く毎年十日間前後実施。掃海母艦や掃海艇を含む三十隻近くの艦艇、ヘリコプター三、四機が参加し、海底に設置した模擬訓練の捜索、へりから潜水員の降下や引き上げを行ってきた。志布志湾での訓練は内容や期間を縮小し二十一、二十四日に実施。漁船などへの影響は全く、漁業補償はないという。

る重油高騰の影響で一、九九年除く毎年十日間前後実施。掃海母艦や掃海艇を含む三十隻近くの艦艇、ヘリコプター三、四機が参加し、海底に設置した模擬訓練の捜索、へりから潜水員の降下や引き上げを行ってきた。志布志湾での訓練は内容や期間を縮小し二十一、二十四日に実施。漁船などへの影響は全く、漁業補償はないという。

07/11/15 鹿日本

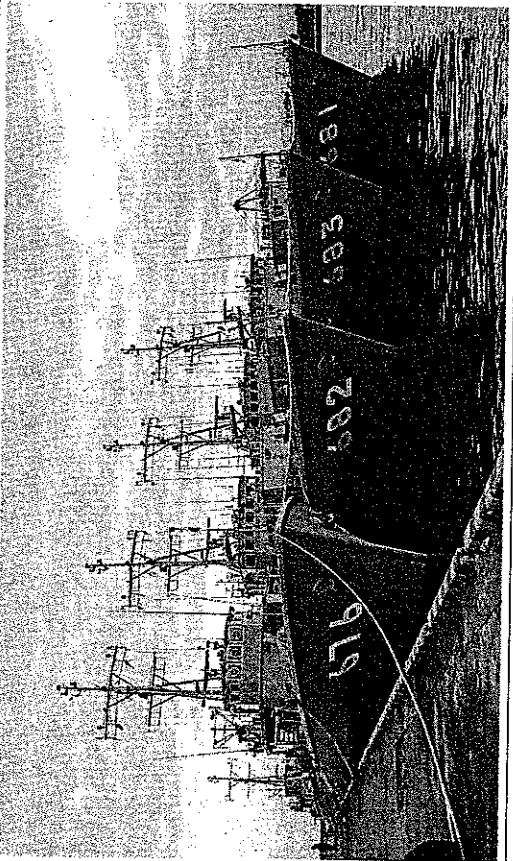
07.11.16 何日

掃海艇が志布志入港

あすから4日間訓練 市民団体は抗議集会

海上自衛隊 11月20日 西の予

志布志湾で初の掃海訓練の掃海艇などが十九日、訓練を実施する海上自衛隊志布志市の志布志湾に入



志布志湾に停泊する海上自衛隊の掃海艇

港した。

海自によると、訓練は二十一日から四日間、機雷に見立てた標的を探し、除去する訓練を行うという。全国七基地から集まった掃海艇や掃海母艦など計二十七隻、乗務員計約千三百人が参加。哨戒ヘリコプター十四機も加わる。

海自掃海隊群の榎本由壽隊長は「志布志湾は後方支援体制も充実しており、個人や船の設置を高めたい」と話した。

一方、県憲法を守る会(荒川議長)などの市民団体は十九日夜、回港に停泊する掃海艇前で抗議集会を開催。約七十人が参加し、「民間港である志布志湾の軍事利用に反対する」との集会アピールを採択した。

掃海訓練は毎年十一月、宮崎県沖の日向灘で行われてきた。今年は地元漁協関係者と漁業補償で折り合いがつかず、規模や期間を縮小し、志布志湾で行うことになった。

2007.11.20 西の予

志布志沖で海自訓練

日向灘から変更 市民ら抗議集会

あす開始 朝日

海上自衛隊は21日から24日まで、志布志沖で初めての大規模な訓練をする。例年宮崎県の日向灘で実施してきたが、今年は漁業補償の交渉がまとまらず、急きよ変更になった。志布志湾の軍事拠点化などを懸念する市民ら約100人は19日、回港で抗議集会を開き、「志布志湾の軍事利用反対!」などと訴えた。

海上自衛隊司令部によると、横須賀、呉、佐世保などから掃海母艦2隻を含む27隻とヘリコプター4機が参加して、機雷に見立てた標的を探索、除去する訓練をする。回港では98年に入港実績があるが訓練は初めて。日向灘では92年から米海軍と共同で週間ほど実施し

ているが、今回は海自のみとし、期間も4日間に縮小。漁場を避けて実施するため、補償の必要はないという。

訓練を前に、県憲法を守る会や社民党県連合は19日、防衛省などに訓練中止を求めるよう県と市に申し入れをし、同日夜、回港で抗議集会を開いた。集会で、回会の荒川議長が採択された十数隻の掃海艇の前で「国に使いやすし港だと思われぬよう常に反対の声を上げていくべきだ」とあいさつ。参加者らは「自衛隊の大規模掃海訓練、反対!」とシュプレヒコールを上げた。

同会などは今回の訓練が、空中給油訓練の艦隊移動を盛り込んだ米軍

再編計画と結びつき、回港が軍港化されるのではないかと懸念しているという。海軍は回港での訓練について「今後の予定は全くない」として

海自の掃海訓練 平和団体が抗議

志布志で集会

海上自衛隊が志布志湾で予定している掃海訓練に関し、県憲法を守る会(荒川議長)ら平和団体が19日、志布志市で抗議集会。また、県と市に対し、訓練中止を防衛省に求めるよう要請した。訓練は21日から24日まで、掃海母艦など計27隻が参加。志布志湾周辺で機雷の敷設、捜索、除去

などを訓練する。県への要請で回会などは、県の港湾使用許可を違反するとともに、民間港である志布志の軍事機能強化に懸念を示した。また、抗議集会でも国際物流拠点港としての発展が期待されている志布志湾に軍艦は不要などと反対を表明した。

2007.11.20 朝日

2007.11.20 西の予